



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

稲城矢野口雲母保育園



#### テーマ 【身近な自然物】

##### 設定した理由・背景

周辺に自然豊かな公園が多数ある園環境を活かし、自然との関わりをテーマとして設定する。

戸外活動へ行くとポケット図鑑を開きながら植物や石のことを調べている子どもたちの様子をよく見かけることから、身近な自然物について子どもたちの興味関心を深める為。

##### 用意した環境設定

- ・身近に図鑑や自然物の本を設置し、いつでも調べられるようにしておく。
- ・実験したものを保育室内に設置し、変化がいつでも見られるようにした。
- ・購入物品 ポケット図鑑、色鉛筆、模造紙、ポスターカラー、画用紙、のり、ボンド

#### 活動のあゆみ

4月～3月

- ・図鑑を使って生態系を調べる。
- ・ヨモギの色出し実験をする。
- ・奥多摩で、近隣の自然物との違いの観察をする。  
(8月6日、7日)
- ・自然物を使った製作をする。(押し花等)
- ・季節ごとの自然物を調べる。

#### ✧探究活動の実績✧

①季節ごとに、園周辺や公園にはどのような花や草があるのか探してみよう等と言葉かけをする。

その都度図鑑と一緒に調べ、「この草はいいにおいがする」「前に見たお花に実がついてる」等と様々な気づきの声が上がった。

↓

②子どもたちが身近にあるその季節ならではの自然物に興味を持ち始め、子どもたち自身で季節ごとの新しい植物を発見したり、様々な場所に生息しているのを見つけたりするようになる。保育者は子どもの知りたい意欲や、見つけた喜びに達成感を感じられるような声掛けを行い、子どもが主体となって探究活動が出来るようにサポートした。

↓

③ヨモギの草からはどんな色が出るか、どんな匂いがするのかを実験した。何色になるのかを子どもたちがそれぞれ予想しながら「明日はどんな色になっているんだろうね」等と、その経過にも興味を持って観察していた。実際に色が出ると、予想が当たって喜ぶ等する様子が見られた。

奥多摩では、ハイキングをしながら近隣では見られない自然物を見つけ、「これは何?」「どんな匂い?」と興味津々で調べていた。

↓

④様々な探究活動を行うことで、子どもたち自身で疑問に思ったことをすぐに図鑑で調べる姿が見られるようになった。

そして季節ごとに様々な自然物があることに気がきかできたり、四季によって変化する自然物の様子にも気づきが出たりしていた。

また、園周辺だけでなく奥多摩でのハイキングを経験し、近隣の自然物との違いにも気づいていた。



奥多摩でハイキング中に植物を観察する様子



身近に図鑑があり、気になったらすぐに調べます



ヨモギからどんな色が出るのか実験している様子

#### まとめ

年間を通じて、自然物との関わりをテーマにして探究活動を行った。

最初の頃は、ただ草花を摘んで遊ぶ子が多かったが、摘んだ草花をその場で調べられるように毎回ポケット図鑑を携帯したり、摘んで持ち帰った自然物を使って製作や実験を行い、その経過がいつでも観察できるようなコーナー作りをしたりした。その結果、活動が徐々に主体的になっていき、子どもたちから活動の提案が出たり、季節ごとの自然物に関する様々な気づきが出りした。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

稲城矢野口雲母保育園



#### テーマ 【生き物】

##### 設定した理由・背景

周辺に自然豊かな公園が多数ある園環境を活かし、自然との関りをテーマとして設定する。

戸外活動に行くとポケット図鑑を開きながら虫の生態などについて調べている子ども達の様子をよく見かけることから、生き物について子ども達の興味関心をさらに深めるため。

##### 用意した環境設定

・園内外ですぐに調べられるような図鑑を身近に用意したり、飼育コーナーを設置し、自由に観察したり、エサやりをしたり出来るようにした。

・購入物品  
ポケット図鑑、虫取り網、虫取りかご、虫眼鏡

#### 活動のあゆみ

4月～3月

- ・生き物の飼育を通してその生き物の生態を知る。
- ・カブトムシ ・クワガタ
- ・カタツムリ ・メダカ
- ・カマキリ ・ザリガニ
- ・蟻

・奥多摩で、近隣の生き物との違いの観察をする。

(8月6日、7日)

・遠足で多摩動植物園へ行き、実際の動物の様子や生活を観察する。(11月7日)

#### ✿探究活動の実績✿

①戸外活動の際に保育者が捕まえた生き物を皆で観察し、「この虫は何を食べているんだろうね」「これは雄かなメスかな」等という問いを投げかける。最初は観察し、少しずつ触れることが出来るような環境設定を行う。

↓

②子どもたちが生き物に徐々に興味を持ち始め、子どもたち自身で生態について疑問を抱き、図鑑を見て調べたり、飼育ケース内の環境を整えようとしたりする姿が見られるようになった。子どもたちの知りたい意欲や、見つけた喜びに達成感を感じられるような声掛けを行い、子どもが主体となって探究活動が出来るようにサポートした。

↓

③捕まえたカマキリについて、図鑑で生態について調べ、生きた虫を食べると知った子どもたちが「カマキリの為に生きた虫を捕まえに行こう」と子どもたち自身で活動を考え、そのための行き先を話し合ったり、捕まえた虫をカマキリのカゴに入れると、補食の様子を息をのんで観察したりすることで、「すごい」と興奮する子もいれば、「ちょっと可哀想」と捕まえた虫に同情する子もいて、子どもたちは様々な反応があった。

また、奥多摩での散策や川遊びでは、近隣の生き物との種類の違いに気づきが見られた。

多摩動物公園では、実際の動物が何を食べているか、どんなところで生活しているかなどを見てその生態について探究した。

↓

④様々な生き物の観察を行い、触れたり生態を知ったりしていく中で、子どもたちが積極的に図鑑を使って調べる姿が見られた。

また、生き物の中での捕食関係を知り、命の大切さに気付いたり、季節によって移り変わる生き物の様子にも気づいたりしていた。



メダカの赤ちゃんを観察する様子



カブトムシを観察する様子



奥多摩の川で生き物を捕まえて観察する様子

#### まとめ

年間を通じて、生き物との関わりをテーマにして探究活動を行った。

最初の頃は、生き物に対して苦手意識がある子も多かったが、生き物の飼育コーナーを設置したことで、自由にお世話をしたり、図鑑で生態について調べたりしていくうちに、少しずつ触れたり雄雌の違いに気付いたり、飼育環境を整えたりと、積極的に関わろうとする子が増えてきた。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

稲城矢野口雲母保育園



#### テーマ 【野菜と食】

##### 設定した理由・背景

自然豊かな公園が近くにある園環境や、当園が力を入れている食育の一環である野菜栽培の特徴を活かし、野菜と食についてテーマとして設定する。

子どもたちは公園に自生するカラスノエンドウやスズメノエンドウの豆に興味を持ったり、野菜の成長や自分たちが口にする食材になるまでの変化について関心をもつ様子がみられたことから、野菜と食への興味関心をさらに深めるため。

##### 用意した環境設定

- ・栽培物を観察できるように設置した。
- ・味噌ができる流れが分かりやすいようとした。
- ・購入品 豆苗、とうもろこしの苗、大豆、模造紙、ペン

#### 活動のあゆみ

5月～豆苗やとうもろこしの栽培を行う。

5月27日 大豆を水に浸す。

5月28日 大豆を圧力鍋で茹でる。

5月29日 味噌作り

1月味噌樽開封

#### ✿探究活動の実績✿

①散歩先で見つけたカラスノエンドウの豆をみて「これは食べられるのか?」「豆にもいろんな種類があるんだ」ということに子どもたちが気付いたことをきっかけに、豆の種類や、大豆からできるものについて子どもたちに問いとして投げかけました。

↓

②大豆から出来るものでは、豆腐や納豆など様々な声が上がったが、その作り方を聞くと考え込む様子も見られた。

サークルタイムで、大豆から出来るものの作り方についても話し合う機会を設けると、「細かくする」「煮る」「油で揚げる」等、様々な調理方法があることを知り、普段食べているものへの興味が深まった様子だった。

↓

③豆苗の成長過程や、大豆を水洗いして浸し膨らんだ後の違い、味噌の完成前後のにおいや色の違いを探究した。最初は固かった大豆が、水に浸すと柔らかくなり、その変化に子どもたちも「大豆がお水飲んだの?」等と子どもたちなりに想像する姿が見られた。その後も味噌作りの工程一つひとつの意味を考え、食べ物の働きについて探究した。

過程を写真に撮り、模造紙に子どもたちと作り方の手順や気づきを書いてまとめたことで、子どもたちも振り返りながら確認していた。

↓

④子どもたちが普段食べている食べ物が、どのように出来ているのかを考えるようになってからは、「これは何から出来ているの?」という質問が多く聞かれるようになった。また、「これも作ってみたい」「どうやって作るんだろう」と探究がさらに深まっていく様子も見られた。



豆苗を育てる様子



蒸した大豆を、皆で潰している様子



潰した大豆に麹菌を混ぜ込む様子

#### まとめ

味噌の作り方などについて自由に想像してみる機会を設けるためサークルタイムを実施したことで、子どもたちの様々な意見から想像が膨らみ、実際の味噌作りへと繋げていった。実際に豆から味噌ができる様子を体験し、1月の味噌樽の開封までも、味噌に「みんちゃん」と皆で名前を、その過程も楽しむことが出来るようにした。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

稲城矢野口雲母保育園



#### テーマ 【自然との共生】

##### 設定した理由・背景

周辺に自然豊かな公園が多数ある園環境を活かし、自然との関りをテーマとして設定する。散歩で見つけた生き物がどんな場所に住んでいるか探したり、どのような環境が住みやすいのか考える様子が見られるため、自然との共生について子ども達の興味関心をさらに深めるため。

##### 用意した環境設定

- ・ 戸外遊びの際にゴミ拾いの時間を設定したり、ゴミ拾いをしながら園周辺を綺麗にする取り組みを行う。
- ・ 生き物や人が住みやすい環境を考える為のサークルタイムの時間を設ける。
- ・ ごみ収集業者さんの話を聞く機会を設ける。
- ・ 今まで学んだことが発表できる機会を設ける。
- ・ 購入物品 子供用軍手、色鉛筆、模造紙、画用紙、ポスターカラー

#### 活動のあゆみ

- 7月 ザリガニ釣りにて外来生物の存在を知り、その生態について考える。
- 11月 多摩動植物園にて様々な生き物たちの住みやすい環境について考える。
- 11月～12月 園周辺地域のゴミ拾い活動を行う。
- 11月20日 ごみ収集業者さんからお話を聞く。  
(ゴミ収集車を実際に見せてもらう)
- 12月20日 生活発表会にて今までの活動の集大成を保護者の方にも見ていただく。

#### ✿探究活動の実績✿

①「生き物や人が住みやすい場所はどんな場所?」「ゴミがあると生き物はどうなるの?」という疑問を問いとして設定する。

↓

②「ゴミ」や「住みやすさ」をテーマにそれぞれの考えをディスカッション出来るようにサークルタイムを設定した。

「自分たちにできること」と考え、子どもたちから「ゴミ拾いをする」との声が上がった為、戸外遊びの際のゴミ拾いから行った。「捨てたごみはどうなっていくの」という疑問をごみ収集業者さんに直接お話を聞いたり、子どもたちからもゴミ拾いの活動報告をしたりと交流の場を設け、ゴミに関しての知識を深めた。

↓

③ゴミ拾いでは、「こんなに拾った」とゴミの量に驚いたり、「こんなものも落ちてた」とごみの種類に驚いたりしていた。

自分たちの町が綺麗になって行く事に気持ちよさを感じたり、地域の方々から「ゴミ拾いしてくれてありがとう」と声をかけられたりして、自分たちの活動が誰かの役に立っていることに喜びを感じていた。

多摩動植物公園では、様々な動物の生活を知り、住みやすい環境とは何かをサークルタイムで話し合った。「動物たちは綺麗な場所と綺麗な水が必要」という意見がたくさん上がり、自分たちが出来ることについても想像を広げていった。

↓

④サークルタイムではどのような環境が生き物にとって住みやすいか、またその環境にはどんなことが必要なのかということ子どもたち同士でお互いの考えを話したり、友だちの意見を聞いたりして、それらを模造紙にまとめることで、様々な気づきが出てきていた。



園周辺のゴミ拾いをする様子



ゴミ収集車の観察をする様子



生活発表会でゴミ問題に関する劇遊びを行った様子

#### まとめ

最初は保育者が行っていたゴミ拾いだったが、子どもたちの疑問に結びつき、実際に子どもたちがゴミ拾い出来るように設定したり、ごみ収集業者の方と交流の機会を設けたりしたことで、子どもたちの様々な気づきに繋がっていった。また、最終的には生き物の気持ちになりきってこの活動を劇遊びを行い、保護者の方にも活動を共有することが出来た。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

稲城矢野口雲母保育園



#### テーマ 【音】

##### 設定した理由・背景

朝の会や帰りの会で毎日担任が楽器を弾く環境や、行事の際に職員たちが様々な楽器で演奏会を行うことが当園の特徴であるため音をテーマとして設定する。担任の演奏を見たり聴いたりするなかで子どもたちが楽器の形や音に興味を持つ様子がみられたのでその興味関心を深める為。

##### 用意した環境設定

- ・保育の中で楽器合あそびが出来る環境を設定する。保育者が普段の保育で様々な楽器を演奏し、子どもたちが様々な楽器の音色を聞く機会を設ける。
- ・購入物品  
ドラム、ギロ、シンバル、鍵盤ハーモニカ

#### 活動のあゆみ

4月～3月 リズム遊びや楽器遊びを行う。

12月20日 生活発表会にて合奏を披露する。

#### ✧探究活動の実績✧

①「これはなんという楽器でしょう」「どんな音がするかな」「この楽器の材料は何かな」といった問いを子どもたちに投げかけた。

↓

②様々な楽器の音を聞くうちに、自分たちもやりたいという声が上がった。

この楽器からはどんな音がするのだろうと試しながら演奏したり、音楽に合わせて思い思いに演奏する姿が見られた。

↓

③楽器によつての音の強弱や音の違いに気づき、「これは優しい音だね」等と、それぞれの良さにも気づいていた。

様々な楽器で合奏を行うことで、音が合わさった時にどのように聞こえるのかを探究し、好きな楽器をもっと上手に演奏したいと練習をしたり、自作の楽器を製作したりと、様々な探究活動の広がりが見られた。

↓

④生活発表会では、それぞれが様々な楽器を持って合奏を行い、合奏をして音が合わさったときの心地よさや喜びを保護者の方々にも観ていただいた。それだけでなく身近な廃材を使ってオリジナルの楽器作りを行い、様々な音作りの探究をしていた。



様々な楽器を楽しむ様子



保育者が日々、様々な楽器を演奏している様子。



生活発表会では様々な楽器で合奏を行いました。

#### まとめ

日頃からピアノだけでなく、ギター、バイオリン、フルート等、様々な楽器を保育者が演奏し、様々な楽器を身近に感じることが出来るような環境を設定した。それと同時に楽器遊びを日々の保育で取り入れていた。

子どもたちが実際に様々な楽器に触れあう機会を設けることで、楽器の違いだけでなく、合奏の心地よさに気付いたり、もっと上手に演奏したいと感じたり、オリジナルの楽器を製作したりと様々な活動の広がりが見られた。



## とうきょう すくわくプログラム

### 2025年度活動報告書

稲城矢野口雲母保育園



#### テーマ 【異文化】

##### 設定した理由・背景

ワールドライブラリーのサブスク（海外絵本の貸出）を行っている当園の特徴を活かして異文化についてテーマを設定する。子ども達が日本ではない国が題材の絵本を見て見慣れない洋服や食べ物、言葉などに興味を持っている姿が見られることから、日本と海外の違いやその文化についてより興味関心を深めていくため。

##### 用意した環境設定

- ・世界地図を用意し子どもたちの目に留まりやすい場所に設置した。
- ・英会話を受講できる環境を作った。
- ・ワールドライブラリーの絵本を手に取りやすい本棚に設置した。
- ・購入物品 スクリーン・プロジェクター・パソコン・webカメラ、英会話オンラインレッスン

#### 活動のあゆみ

英会話

4月～3月

毎週月曜日

フィリピンの先生とオンラインで交流する。

英語での会話や歌だけでなく、異文化探究レッスンでは様々な国の挨拶や家、住む動物、食べ物などについても探究した。

#### ✿探究活動の実績✿

①「英語って何？」「海外にはどんな洋服、言葉、食べ物があるんだろう？」という疑問を問いとして設定する。

↓

②子どもたちが海外の文化に興味を持ち始め、ワールドライブラリの国を世界地図で探したり、最初は控えめだった英会話レッスンも「ハロー」など簡単な挨拶から積極的に話そうとする姿が見られるようになる。

↓

③英語に触れるだけでなく異文化にも興味を広げ、その国の衣食住をはじめ、様々な文化について積極的に質問をする姿が見られた。年長児は木で出来ている家を見て「どうして日本の国は木の家が少ないの？」と外国の家との違いに疑問を持ったり、年中児は韓国の民族衣装を見て「七五三の服みたい」と外国の服装との似ているところに気付いたり、それぞれの年齢での気づきの姿があった。また、その中で教えてもらったことなどを大きな世界地図に書き、日本との距離や関連性についても興味広がっていった。

↓

④簡単な英語でコミュニケーションをとる事で異文化を感じたり触れたりし、異文化交流プログラムを通じて様々な文化の「違い」や「共通点」にも気づいたりした。

最初は英語でのコミュニケーションに消極的だった子も、回数を重ねて、様々な歌やダンスも楽しむうちに、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が見られるようになった。



ワールドライブラリで海外の絵本を読む様子



英会話教室の様子(4歳児)



英会話教室え手遊びを行う様子(5歳児)

#### まとめ

毎週の英会話レッスンでは、最初のうちは英語でのやり取りに戸惑う様子もあったが、英語で歌やダンスを行うことで身近に英語を感じるようになった。また、異文化交流プログラムを行うことで様々な国の文化を知り、その文化の違いを見つけたり、共通点に気付いたりしていた。

それらの経験を経て、3月には英会話でも積極的に会話をする姿が目立つようになった。